



## ピンチはチャンス！ ～コロナ禍の海外赴任～



サンチャゴ日本人学校 毛利 亮太

日本の裏側にあり、細長い国土で、サーモンが獲れる…。それくらいしか思い浮かばないままチリに赴任し、早くも2年半が経過しようとしています。

雲一つない真っ青な空の日々が続き、カラッと過ごしやすい気候に、家族で気軽に外出できる治安の良さ。きれいに整備された街並みや公園、どこのお店でもキャッシュレスで買い物ができる便利さ。そして何より、気さくで親切的なチリの人達。生活する中で、チリの魅力を沢山発見できました。サンチャゴ日本人学校は、そんなチリの首都サンティアゴにあります。現在、小学部22名、中学部4名の子どもたちが元気に学校生活を送っています。

昨年度は、新型コロナウイルス蔓延の影響で市内がロックダウンしたため、オンラインで授業を行うことになりました。1日3～5時間の授業を行い、2週間に1回、教員が外出許可証を申請した上で各家庭を訪問していました。オンライン授業では、子どもの手元が見えず、音声は一方通行で途切れることもありました。そのため、普段以上に子どもの表情や発言に気を配ったり、オンラインの良さである資料提示や意見共有のしやすさを活かしたりすることを心掛けました。また、本校の一番の特色である異学年交流を目的に、中学部がオンライン全校集会を企画・運営しました。幅広い年齢の児童生徒が楽しめるよう、「動物ビンゴ」「絵しりとり」などルールが分かりやすいレクを2週間に1回のペースで実施しました。このようなオンライン授業が約1年続きました。登校が再開され、子ども達の明るい声が戻ってきた時の喜びは、今でも忘れられません。

今年度は、チリのコロナの状況も落ち着き、学校生活も元に戻りつつあります。天文学等様々な分野のプロの方を講師に招いた「特別授業」や、土曜に行われる「剣道教室」「空手教室」「サッカー教室」も始まりました。授業では、今年度より導入されたタブレットを、子どもの思考を深めたり、意見を共有したりする場面で積極的に活用しています。

コロナ禍で閉鎖を余儀なくされた学校は、異学年交流や特別授業など既存の良さに、オンライン授業で培ったノウハウを活かしたICTという新しい魅力が加わって再出発しました。残された任期を、学校、そして子どもたちのため、精一杯尽くしていきます。



オンライン全校集会の様子



登校再開初日。検温、消毒をして校舎へ入ります。



特別授業（宇宙について）の様子